

27. 芸術工学部

(1) 芸術工学部の教育目的と特徴	27-2
(2) 「教育の水準」の分析	27-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	27-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	27-12
【参考】データ分析集 指標一覧	27-14

(1) 芸術工学部の教育目的と特徴

1. 芸術工学部では、工学や技術に関する科学的な知識、人間や社会に対する深い洞察そして創造的な芸術的センスを兼ね備えた設計家あるいはデザイナーを養成することを目的としている。

前身の九州芸術工科大学（昭和 43（1968）～平成 15（2003））では、「技術の人間化」という進歩的なスローガンをかかげ、いかに技術を人間生活に適合させるかを教育してきた。そして今日、IT 技術の進歩とそれがもたらす新しい文化の形成、生産や流通の革新、生活様式の多様化、地球規模での環境問題など、設計やデザインを取り巻く状況は日々発展し続けている。デザインの対象は「モノ」だけでなく、ことがらや社会の仕組みにも及んでいる。

芸術工学部は、こうした 21 世紀の状況に的確に対応できる豊かな教養を持ち、国際的にも通用する広い視野と学識を持つ、創造性あふれる人材を育成する。

2. 環境設計学科、工業設計学科、画像設計学科、音響設計学科、芸術情報設計学科の 5 学科からなる。
3. ディプロマ・ポリシー「幅広く深い教養と総合的な判断力を備えた創造性豊かな人材養成」を実現するため、アドミッション・ポリシーでは、（1）基礎学力、（2）好奇心、（3）感性、（4）現力、（5）柔軟性の 5 項目を強調している。そのため入試区分においては A0 入試の比率を 27.3%と高く設定している。
4. 感性研究、しくみ設計、イノベーション創出において創造的・先導的役割を果たす人材育成を明確にしている。
5. 基幹教育においてアクティブラーニングの方法を学び、専攻教育においては、芸術工学の基本・基礎を習得させる授業に加えて、芸術的感性や計画・設計能力、総合的な判断力を養うため、PBL（課題解決型学習・Problem Based Learning）科目を多く取り入れている。
6. インターンシップを単位化して、実社会での体験を通して学習内容の定着やキャリアデザインの推進を行っている。
7. 以上の教育目的と特徴は、本学の中期目標記載の基本的な目標「アクティブ・ラーナー」及び「骨太のリーダー」の育成を目指した「基幹教育」を開始し、学生が自ら学び自らを育てる教育の実践に務めてきたところを基盤として、学部教育を通貫したカリキュラムの見直しや全学的な国際化への対応を進める。」を踏まえている。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 7327-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 7327-i2-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料（別添資料 7327-i3-1～5）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料（別添資料 7327-i3-6～7）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 大学を取り巻く社会構造が大きく変化し、デザインの対象は「モノ」から「コト」へ、さらに「ビジョン」へと拡大し、デザイナーの役割も大きく変化している現状から「芸術工学」教育をあらためて見直す必要が出てきた。
このような課題に 대응するため、教育課程を見直すこととし、教育課程、授業内容に対応する学部改組を計画、申請した（令和元（2019）年度）。
（別添資料 7327-i3-8） [3.1][3.2]
- 総合大学としての多様性を背景に、特定の学部を指定せず学際的な学びを展開する総合科目を開いている。（別添資料 7327-i3-9～10） [3.3]

<必須記載項目 4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（別添資料 7327-i4-1~2）
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料（別添資料 7327-i4-3~4）
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 7327-i4-5）
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料（別添資料 7327-i4-6）
- ・ 指標番号 5、9~10（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 文理混合で学際的テーマについて協働学習を行う PBL 科目である課題協学科目を全学必修科目として開いている。（別添資料 7327-i4-9） [4.1]
- 環境、工業、画像、音響、芸術情報の各分野の「高度デザイン人材」の養成を目標として、分野間の複合化、総合化のために、課題解決型学習（PBL）科目を多く配置している。（別添資料 7327-i4-10~12） [4.1]
- 高度な知識、技術に触れながら実践的、実務的能力の向上のために授業科目「インターンシップ」を開講し、企業、行政機関、公益法人等の団体で実習を行った学生に対して単位認定を行った。（別添資料 7327-i4-7~8） [4.2]
- e-learning プラットフォーム「九州大学 Moodle」を全授業科目中 26%（2019 年度）が利用し、標準的なオンライン学習環境を学生に提供した。（別添資料 7327-i4-13） [4.3]
- 演習授業では特に PBL 型の演習に力を入れている。教育効果を高めるため、少人数グループに分かれて実施することが多く、複数の教員による同時進行型に加え、複数のティーチングアシスタントを活用することも増えている。また、本学部ではデザイン教育に重点を置いており、実務経験のある教員を配置することは重要である。実際、教員公募の際にも実務経験を有する者の応募が多く、採用者も多い。 [4.4]
- 3年後期に全学生が参加する「口頭試験」を開催し、卒業研究に着手する上で必須な基礎的な知識、技能、能力を確認している。また、卒業研究の成果を社会に発信するため、毎年2月中旬に一般公開する卒業研究展を5学科で開催し、それを通じ卒業研究に取り組む学生の意欲の向上を図った。環境設計学科では、学生が卒業論文、卒業設計の両者を行うことで、基礎的な研究能力に加え、それに立脚した創造的、実践的な課題解決能力の修得を図っている。（別添資料 7327-i4-14~15） [4.5]
- 座学で学んだ知識、理論を実務への応用、実践的な能力へ高めるため、学外実習を毎年度 15 件程度、授業科目の中に取り入れている。 [4.6]
- 平成 12（2000）年から学生によるアンケートという形での授業評価を実施してきた。令和元（2019）年度から、オンライン学習システム Moodle の上でのアンケートシステムを導入し、すべてオンラインで結果を確認できるようになっている。

九州大学芸術工学部 教育活動の状況

授業への改善という意味に加えて学習成果の可視化にも貢献している。

演習の結果としての作品、研究成果等が、コンペ、芸術祭、学会等で採択あるいは受賞することも多い。本学部では学生の受賞などの情報を集め、積極的に部局のホームページにトピックスとして公開している。(別添資料 7327-i4-16) [4.7]

- 基幹教育院附属次世代型大学教育開発センターは、FD 開催等により新たな科目・教育手法を開発している。(別添資料 7327-i4-17) [4.0]

<必須記載項目5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 7327-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 7327-i5-2）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 7327-i5-3）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 7327-i5-4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 芸術工学部における創造性教育支援のため、芸術工学部内で共用できる施設、設備の利用方法（安全教育を含む）を一覧できるブックレット/Web ページを令和元（2019）年度に制作した。加えて、平成30（2018）年度及び令和元（2019）年度には、創造性教育支援のための工作工房等における機器材、設備の利用のための講習会を定期的で開催した。（別添資料 7327-i5-5） [5. 1]
- 振り返りや将来の目標設定を通してキャリアに目を向けさせる初年次必修科目基幹教育セミナーを開いている。（別添資料 7327-i5-6） [5. 3]

<必須記載項目6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 7327-i6-1）
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 7327-i6-2）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 7327-i6-3）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 厳格な成績評価を行うために、専攻教育科目でもルーブリック付きのシラバスを活用しており、芸術工学部におけるルーブリック付きシラバスの公開状況は、令和元（2019）年度では76.7%（202科目中155科目）である。（別添資料 7327-i6-4） [6. 1]
- 基幹教育では成績評価はルーブリックに基づくものとし、シラバスで評価方法（含ルーブリック）を公開している。（別添資料 7327-i6-5～6） [6. 1]

<必須記載項目 7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 7327-i7-1～2）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（（再掲）別添資料 7327-1、別添資料 7327-i7-3～6）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目 8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 7327-i8-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 7327-i8-2）
- ・ 指標番号 1～3、6～7（データ分析集）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 九州・中国地区を中心とし全国の高校を対象とし、申込のあった高校へ教員を派遣する出前授業を実施している。（別添資料 7327-i8-3） [8. 1]
- 例年 8 月に開催するオープンキャンパスでは、芸術工学部の特徴がわかるさまざまな企画を実施し、進学希望者に入学後の具体的なイメージを伝え、受験意欲を引き出す機会を設けている。例年来場者数は約 1,000 名である。 [8. 1]
- 主に高校生を対象とした公開講座を年 6 回程度実施し、毎回定員を上回る受講希望がある。本学部を高校低学年時から知ることのできる機会を創出している。 [8. 1]
- 一つの会場に 3 万人程度の高校生が集まる、大学研究と学問発見のための国公立大合同進学ガイダンス「夢ナビ（夢ナビライブ、夢ナビ講義など）」に参加し、全国の高校生に向け国立大学の中でも伝統あるデザイン学部であることをアピールしている。（別添資料 7327-i8-4） [8. 1]
- 以上のような様々な取り組みにより、広く高校生にアピールすることで少子化のなか学部として政府公表資料にある通り例年約 3 倍以上の倍率を保持している。 [8. 2]

九州大学芸術工学部 教育活動の状況

<選択記載項目A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（（再掲）別添資料 7327-i4-5）
- ・ 指標番号 3、5（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 正課の授業外での自主的な英語学習のサポートを目的として、基幹教育院が設置した SALC (Self-Access Learning Center) を本学部生が利用できるようにしている。（別添資料 7327-iA-1） [A. 1]
- 部局間交流協定を締結している大学との国際的なプロジェクトとして、デザイン思考の手法を活用した社会課題の解決案を提案する授業「グローバルデザインプロジェクト」を、工業設計学科、芸術情報設計学科、音響設計学科を中心に、平成 28（2016）年より臨時開設科目として開講している。平成 29（2017）年度にダルムシュタット科学技術大学（ドイツ）、平成 30（2018）年度に大連理工大学（中国）、國立成功大学（台湾）、ID KAIST (Korea Advanced Institute of Science and Technology)（韓国）、令和元（2019）年度にアムステルダム応用科学大学（オランダ）と共同の授業を行っている。いずれも、双方の大学から複数の教職員、少人数の学生が参加、英語によるコミュニケーション、インターネットを通じたディスカッション、双方の大学を訪問してフィールドワークを行ったり、最終的な成果のプレゼンテーションを行ったりした。環境設計学科では、平成 30（2018）年度にニューサウスウェールズ大学、シンガポール国立大学とのジョイントスタジオが実施された。（別添資料 7327-iA-2～3） [A. 1]

<選択記載項目B 地域連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○ 持続可能な開発目標（SDGs）デザインスクールを開催した。これは、デザイン手法で身近にある SDGs の課題を学び、SDGs に対してデザインの領域で何ができるのかを考える教育活動である。平成 30（2018）年度には、公文国際学園（神奈川県）（中学 3 年生）による屋台調査、小学生から社会人までを対象にしたペットボトルのリサイクルアートワークショップを開催し、令和元（2019）年度には、福翔高校（福岡市）にてゴミ問題や気候変動についてのワークショップを開催した。

(別添資料 7327-iB-1) [B. 1]

○ 小・中・高校生や一般市民など多くの方々に、デザインについての理解を促すために、地域商店の出店協力を得ながら施設公開事業「デザインのフシギ体験」を実施した。多くの来場者（平成 28（2016）年 1,665 人、平成 29（2017）年 2,697 人、平成 30（2018）年約 1,500 人、令和元（2019）年約 1,000 人）に、各分野のデザインについて楽しみながら学ぶ機会を提供した。(別添資料 7327-iB-2) [B. 1]

<選択記載項目C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 急速に拡張し、質的に変容を続けるデザインの概念と、デザインに対する社会的なニーズの変化を背景に、今後のデザイン教育を議論するための「デザイン教育の質に関する保証国際シンポジウム」を平成29(2017)年10月に開催した。シンポジウムには、国内外のデザイン教育に携わる研究者16名(韓国1名、中国2名、台湾1名、シンガポール2名を含む)、学内教員43名の他、学生、行政、企業などから151名が参加し、多様な視点からデザイン教育のあり方が議論された。(別添資料7327-iC-1) [C.1]
- 平成29(2017)年11月以降数回、国内においてデザイン学分野で実績のある主要な8大学から研究者が集まり、「デザイン系大学連携会議」を実施し、これからのデザイン教育、デザイン人材育成について協議した。そして、令和元(2019)年、デザイン系大学連携会議を基盤とする「国公立デザイン系学会議」を立ち上げ、10月5日に国内のデザイン学分野を担う22大学から32名の研究者が集まり、会議の目標、これからの方向性の検討、各大学で行っている取組報告とそれに基づくディスカッションを行った。(別添資料7327-iC-2) [C.1]
- 九州大学の教育の質向上支援プログラム(EEP)「デザイン教育の質的保証と国際共同教育プログラム開発事業」(平成27(2015)年度～平成29(2017)年度)により海外の世界トップレベルにあるデザイン学分野の高等教育機関(スタンフォード、KAIST、RCA(ロイヤル・カレッジ・オブ・アートなど))と、教職員と学生の相互派遣を含む共同プロジェクト等を通して連携を深め、国際共同教育プログラムに参加した学生の経験等を他の学生にフィードバックするためのガイダンスを実施し、学生の海外留学に対する興味や意識を高めた。[C.0]
- 本学の教育の質向上支援プログラム(NEEP)「デザイン思考を活用した科学技術イノベーション人材育成のためのデジタルファブリケーションによる次世代デザイン教育手法の開発」(平成30(2018)年度～令和3(2021)年度)により、新たなモノづくり実践に取り組むとともに、次世代の教育プログラムとしてこれまでのデザイン教育の中に学術的に位置づけアーカイブして全世界へ発信・共有し、次世代の教育プログラム(「創造性教育」)の手法として開発・確立する取り組みをスタートした。(別添資料7327-iC-3) [C.0]

<選択記載項目D エンジニアリング教育の推進>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 新たな時代のものづくりの方法として「デジタルファブリケーション」を導入した。3Dプリンタをはじめとした、デジタル制御によるものづくりを教育に取り込み、インターネットによる世界的なネットワークを通じたものづくりの可能性の追求を行っている。

具体的には、平成30(2016)年度から臨時開設の講義・演習科目として「デジタルファブリケーション」を開講・実施している。さらに、令和2(2020)年度の学部再編におけるデザインリテラシー科目「基礎造形IV」に向けた試行の意味も含めて、令和元(2019)年度から臨時開設の演習科目として「デジタルファブリケーション応用」を開講・実施している。この科目によって、木工・金工・溶接などの伝統的なものづくりの手段と、デジタル機器を融合し、ものづくりのパラダイム転換を志向した教育を行った。これらの科目の開講・実施は、他の既存のエンジニアリング教育のアップデートの動機付けとなっており、先進的なエンジニアリング教育の推進にも波及している。(別添資料7327-iD-1~2) [D.1]

<選択記載項目E リカレント教育の推進>

【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所(別添資料7327-iE-1~2)
- ・ 指標番号2、4(データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- リカレント教育を推進するための工夫として、社会人・企業技術者向けにも近年の技術の再取得を実践的に学べる公開講座を開講している。例えば、聴能形成実務者向けの技術教育などが挙げられる。[E.1]

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 7327-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 7327-ii1-2）
- ・ 指標番号 14～15、17～20（データ分析集）
- ・ 指標番号 16（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7327-ii1-6）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 第3期中期目標期間における卒業生の約27%が卒業要件の最低単位数より5単位以上多い単位を修得している。（別添資料 7327-ii1-3）[1.1]
- 学会年次大会における研究発表の受賞ばかりでなく、特にデザインに関連する国際そして国内有数のコンペティションで受賞が多く高い評価を得ており、芸術工学教育の成果が現れている。（別添資料 7327-ii1-4～5）[1.2]

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部における進路状況では、第3期中期目標期間の卒業生数の平均は212名となっている。卒業後の学士の進路状況は、就職が約41%、大学院への進学は約44%となっている。就職先は、情報通信業、製造業が45%で、産業構造の変化に伴い求められる情報通信業に従事できる人材育成や新たな産業の構造改革が求められる製造業への従来の枠組みにとらわれない創造的視点を持つ人材の育成の結果が示された。また、芸術工学分野らしい美術・写真・デザイナー等クリエイティブ業への就職も平均16%あり、元々の雇用人数が少ないクリエイティブ系へも、継続的に雇用されている。[2.1]

<選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
(別添資料 7327-iiA-1～3)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 第3期中期目標期間での卒業時の学生からのアンケート調査の結果、学部の授業が自分の目指す学問や職業分野の能力を獲得する上で体系的な構成かどうかを評価する項目について平均して 79%が肯定的意見であり、自身のキャリアパスに学部授業が大いに貢献する可能性があることが示された。[A. 1]

<選択記載項目B 卒業（修了）生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業（修了）後、一定年限を経過した卒業（修了）生についての意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料（別添資料 7327-iiB-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 学部改組の書類作成にあたり平成 30（2018）年度に昭和 52（1977）年度から平成 29（2017）年度までの卒業生 27 名を対象に実施した記述式アンケート調査によると、専門分野と専門分野以外で学んでおいて良かったと思う授業科目について複数の授業科目が回答されており、卒業後の仕事の中で実質的に学びが活かされていることが示された。[B. 1]

九州大学芸術工学部

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。

※ 部分の指標（指標 11）については、研究活動の状況に関する指標として活用するため、学部・研究科等ごとの現況調査票（教育）の指標には活用しません。